富山テレビ放送開局50周年記念

イタリア政府が認定した一流格付歌劇場が初めて富山へ!

イタリアの名門、ヴェルディ2作品を初演したゆかりの劇場!

トリエステ・ヴェルディ歌劇場

G.ヴェルディ

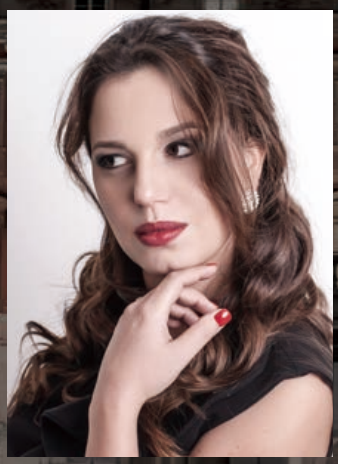
「椿姫」

G.VERDI "LA TRAVIATA"

【指　揮】
ファブリツィオ・マリア・カルミナーティ

【演　出】
ジュリオ・チャバッティ

【アルフレード】
ジュリオ・ペッリグラ



【ヴィオレッタ】
ジェシカ・ヌッチオ

【ジェルモン】
ドメニコ・バルツァーニ

【指　揮】
ファブリツィオ・マリア・カルミナーティ

演 奏：トリエステ・ヴェルディ歌劇場管弦楽団／合唱団

2019年
11月7日(木)
18:30開演(18:00開場)

オーバード・ホール(富山市芸術文化ホール)

発売日　5月24日(金)10:00より一般発売

SS席	17,000円	S席	14,000円
A席	9,000円	B席	6,000円
U-25	4,000円		

25歳以下、アスネットカウンターのみ取り扱い。当日空き席と引き換え。引換時に年齢を確認できる身分証をご提示ください。

※入場料[全席指定・税込]　※未就学児入場不可

《チケットお取り扱い》
- 富山テレビ放送 事業部 ● アスネットカウンター(10:00～18:00 ／月曜定休 月曜が祝日の場合は翌平日休 TEL.076-445-5511)
- アスネットオンラインチケット http://www.aubade.or.jp(24時間受付)
- 楽天チケット http://r-t.jp/classics(Webなら座席選択可)050-5434-7343(平日10:00～17:00)
- エンタメスタイル http://www.entame-style.jp ● e+(イープラス) http://eplus.jp/ ● 富山大和 ● 高岡大和
- チケットぴあ Pコード:147ー849 ● ローソンチケット Lコード:55633

〈先行発売〉
- アスネット会員　5/16(木)のみ
- BBT WEB　5/16(木)10:00～
- エンタメスタイル　5/16(木)10:00～

[主 催] 富山テレビ放送／(公財)富山市民文化事業団／富山市　[共 催] 北日本新聞社
[企画制作] コンサート・ドアーズ、(同)鍛冶企画室
[お問合せ] 富山テレビ放送 事業部　076-492-7106(平日9:30～17:30)

G.ヴェルディ「椿姫」

指揮 ファブリツィオ・マリア・カルミナーティ／演出 ジュリオ・チャバッティ

全3幕

原語上演・日本語字幕付き

最高の歌手を得て、すべてを備えたオペラのすべてが引き出される!

《椿姫》にはすべてがある。私たちが人生を通じて味わう喜びも、苦悩も、救いもすべてが詰まっていて、終幕まで観る人の心を揺さぶり続けるのだ。イタリアでは「《椿姫》は豚だ」といわれる。肉から内臓や耳まですべてが美味しく食べられ、残すところがないという意味である。

ヒロインのヴィオレッタはパリの高級娼婦で、彼女に恋い焦がれるアルフレードへの真実の愛に目覚める。だが「汚れて」いるがためにブルジョワ社会から拒まれた挙句、結核で若い命を落とす。こうして悲劇へと向かう彼女の心の履歴が、名旋律を通じて聴き手の胸に生々しく届けられるのだ。華麗なコロラトゥーラで表された恋の芽生えには、胸のときめきを、恋人の父に強いられて自己犠牲を決める二重唱の心の移ろいには、涙を強いられ、死を前にしての心の叫びに、ますます涙を誘われる。ほかにもアルフレードや父ジェルモンのアリアなど、なにもかもが味わい深い。

だが、《椿姫》の凝縮した魅力を引き出すには、華麗な表現から劇的な心の叫びまでを歌い描ける卓越したソプラノが欠かせない。その一人としてヨーロッパで台頭著しいのがジェシカ・ヌッチオだ。《椿姫》が初演されたフェニーチェ劇場で、まさに《椿姫》でデビューしたという事実が、その実力と今後への期待を物語っている。気品あるペッリグラのアルフレード、スタイリッシュなバルツァーニのジェルモンが加わって、極上の《椿姫》が約束されている。

イタリアとウィーン、それぞれの強みを併せ持つ名門歌劇場

イタリア東端の国境の港町、トリエステ。イタリアに併合されたのは1918年で、長くハプスブルク家の支配下にあったが、その間もこの町の人たちは、自らがイタリア人であると強く認識してきた。この歴史的な二重性は、こと文化の上ではトリエステの大きな強みになっている。オペラ発祥の地であるイタリアの伝統と誇りを保ちながら、音楽の都ウィーンの養分も吸い続けてきたからである。

その象徴がヴェルディ歌劇場だ。落成したのは1801年、ミラノのスカラ座によく似た正面と世界有数の華やかな内装を誇るが、それも当然で、スカラ座を生んだ建築家ピエルマリーニが設計に携わり、ヴェネツィアのフェニーチェ劇場の設計者だったセルヴァが内装を手がけた。もちろんヴェルディと縁が深い。《イル・コルサーロ（海賊）》と《スティッフェーリオ》の2作が初演され、ヴェルディの死後、歌劇場は巨匠の名を冠することを許されている。その後、ジーリ、デル・モナコ、カラス、テバルディ……と、綺羅星のごとき歌手たちが名演を繰り広げてきた。むろんその伝統は、そのままいまに受け継がれている。

澤武紀行（特別出演）

射水市（旧新湊市）出身。桐朋学園大学音楽学部演奏学科声楽専攻首席で卒業。
県内外で数々の演奏会、式典等で活躍。現在、本拠をドイツに置き、ベルリン国立歌劇場ほかヨーロッパ各国の歌劇場に出演。

キャスト

【ヴィオレッタ】ジェシカ・ヌッチオ

数々のコンクールで優勝後、《椿姫》が初演されたヴェネツィアのフェニーチェ劇場で2011年、まさにヴィオレッタ役でデビューしたヌッチオ。コロラトゥーラとドラマティックな表現が両立し、超高音にもストレスなく届く、今後のイタリア・オペラ界を背負う美貌のソプラノ。

【アルフレード】ジュリオ・ペッリグラ

2006年のデビュー以来、イタリアをはじめ主要歌劇場で、ベッリーニの《清教徒》をはじめベルカント・オペラの難役を次々と歌いこなすテノールの若き俊英。装飾的なフレーズもラクに歌えるだけに、アルフレードを歌っても端正で気品がある。ヌッチオとの相性は抜群だ。

【ジェルモン】ドメニコ・バルツァーニ

サルデーニャ島に生まれ、声楽のほかに政治学と経済学も学んだ知的なバリトン。
今年がデビュー20周年で、いまもモーツァルトやロッシーニを端正に歌いこなす音楽性と技術に恵まれ、ヴェルディの重厚な役もスタイリッシュに表現。近年、声が深みを増した。

ファブリツィオ・マリア・カルミナーティ（指揮）

イタリア・オペラを知り尽くし、イタリアの主要劇場で重用される重鎮指揮者。ベルカント・オペラに定評があり、ヴェルディの演奏で細やかな表現を実現できる逸材。歌手の呼吸への理解も深い。

※キャストの一部が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

作品・キャスト・劇場紹介　オペラ評論家　香原斗志

舞台写真：©fabio parenzan

入場券ご購入にあたり、次のことをあらかじめご承知おき下さい。

①やむを得ない事情で出演者が変更になる場合がございます。最終的な出演者は当日発表とさせていただきます。　②お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更はできません。
③開演時間に遅れた場合、休憩までご入場をお待ちいただくか指定場所でのお立ち見となります。余裕を持ってご来場ください。　④場内での写真撮影、録音、録画は固くお断りします。
⑤未就学児のご入場はご遠慮ください。　⑥ネットオークションなどによるチケット販売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。